

腹部を強打した際に生じる痛みに対 する鍼治療技術

—急性症状を解消する鍼技術について—

清野鍼灸整骨院 ○山田 昌紀
吉田 卓司
南波 利宗
村田 朝子
清野 充典

【目的】

- * 鍼灸治療は、急性期の症状に対応可能な医療であると考えている。当院では、症状発症後72時間以内を急性期ととらえ、様々な症状に対して鍼灸治療を行っている。その中で、今回は空手道大会において、直接打撃により腹部の痛みが発症した選手に対して、受傷直後に鍼灸治療を行った症例を報告する。

【空手道大会風景】







【症例】

- * 性別：男
- * 年齢：不明



みぞおち(鳩尾穴付近)への打撃の模式写真

【現病歴】

- * 空手道大会の組手試合中に、腹部のみぞおち（鳩尾穴付近）に正拳が入り、急激な腹部痛が発生し、呼吸困難・運動困難に陥る。試合続行不可能となり、直後に空手道大会会場の救護所に運ばれ、鍼治療を行う。

【治療・経過】

- * 患者が楽な姿勢である側臥位の状態では筋縮穴に、0.2×40mm(1寸3分3番)銀鍼を用い、捻鍼法にてゆっくり穿皮をした。3cm程度刺入すると呼吸が整い、意識が回復した。そのまま、鍼妙を感じるままに運鍼している(刺入を押し進める)と、痛みが治まり、ほぼ打撃を受ける前の状態に回復した。

【治療風景】



【考察1】

* 空手道大会における救急現場で、直接打撃により発生した腹部痛に対して、様々な鍼治療を行った結果、

①捻鍼法

②単刺術

③運鍼

という鍼治療の手法を組み合わせる行うことが効果的だった。

【考察2】

- * 患者は、苦痛のため同一姿勢を維持することが困難であり、突然姿勢を転換する場合があります。そのような状況では、適切な患者肢位や治療方法の選択が重要であると考えられる。



【考察3】

- * 今症例では、患者がもっとも楽な姿勢である側臥位を選択したことおよび捻鍼法を選択したことにより、好結果を得られたと考える。



【考察4】

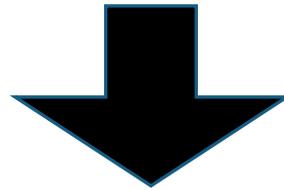
- * 鎮痛の機序に関しては、
 - ①内因性オピオイドの関与
 - ②ゲートコントロールの関与
 - ③症状発症直後に疼痛除去が行えたこと
 - ④その他の可能性(道具や手技の選択など)

【考察5】

- * 鍼治療は、急性症状を即座に回復することが可能な治療方法であると示唆される。しかし、その作用機序は、今後の検討が必要と考える。

【考察6】

- * 患者にとって、急性期の症状は素早く取り除いてほしい苦痛である。早期の苦痛除去は患者の利益である。
- * 救急現場という特殊な状況では、十分な設備がないことが多い。



- * 様々な状況に対応できる効果的な治療方法を模索することは、重要なことと考える。

【結語】

- * 鍼治療は、急性症状を即座に回復することが可能な治療方法であると示唆される。様々な症状に対し、鍼灸技術を駆使することにより、効果を上げる治療方法が発見できると考えている。